

The past thirty to forty years have seen a huge increase in the number of children / ^{S₁} [who ^{V₁} suffer from allergies], and ^{O₁} scientists are still looking for the explanation. ^{S₂} ^{V₂}

↑ ↑ ↑
関係代名詞

Simply put, / exposure to allergy-causing substances is necessary / <for natural protection against them to develop>.
↑ ↑ ↑
独立分詞構文
= allergy-causing substances 不定詞の副詞用法

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

- The number of children who have allergies has increased during the past three to four decades. ()
- Allergies are common only among children in the city. ()
- Exposure to allergy-causing substances is unnecessary for young children. ()

覚えておきたい表現

It is found that ... 「…ということがわかる」(形式主語構文)

ℓ.3 : it has also been found that allergies are common not only among children in the city but also among children in the countryside 「都市の子供だけでなく, 田舎の子供の間でもまた, アレルギーはめずらしくないこともわかっている」

・it has also been found that ... 「…ということもわかっている」: この it は形式主語で, 真の主語は that 以下。「…が発見されている」と訳すよりも「…がわかっている」と訳した方がわかりやすい。

Ex. It has been found that she has been practicing somersaults for three months. 「彼女が宙返りの練習を3カ月間続けてきたことがわかった。」

・not only A but also B 「A ばかりでなく B もまた」: この A と B には文法的に同じ格のものが入る。ここでは, among children in the city 「都市の子供の間」と among children in the countryside 「田舎の子供の間」という対比される前置詞句が入っている。

Ex. The cake was made not only for the children but also for their mother. 「そのケーキが作られたのは子供のためだけではなく, 彼らの母親のためでもあった。」

much+比較級「はるかに～; ずっと～」(比較級の強調)

ℓ.5 : the countryside, where pollution is typically much lower 「汚染が概してはるかに少ないような田舎」
・副詞 much を比較級の前に置くと比較級を強調することができる。同じように比較級を強調するものには, far や even, still がある。very は原級は強調できるが, 比較級の強調には使えないので注意したい。

Ex. Her English pronunciation is much better than our teacher's. 「彼女の英語の発音は私たちの先生のものよりはるかによい。」

副詞+put (speaking ; talking), S+V ... 「～に言うと…」(独立分詞構文)

ℓ.15 : Simply put 「簡単に言うと」

・Simply put は If it is simply put, の省略形で, Generally speaking 「一般的に言うと」などと同じ独立分詞構文。この put は「を言い表す; を表現する」という意味。独立分詞構文は他にも Talking [Speaking] of ～ 「～と言えば」や, Strictly speaking 「厳密に言えば」などがある。

Ex. Clearly put, this is all your fault. 「はっきり言うと, これはすべて君が悪いのだ。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① アレルギーに悩む子供の激増

(原因1) 大気汚染を原因とする説

◆ ℓ.3 but 「しかし: 逆接」

⇒ 都市だけでなく, 空気のきれいな田舎の子供にもアレルギーがある。

② (原因2) 「衛生仮説」= 過剰衛生という仮説

(説明) 清潔すぎる環境で育った幼児は, アレルギーを発症しやすい。

・現代では, 昔よりも頻繁に, 入浴や洗濯をする。

・電気掃除機のおかげで, 住居のほこりが昔より減った。

◆ ℓ.12 One result 「1つの結果: 結果・結論」

⇒ 幼児がアレルゲンにさらされる量が減っている。

⇒ 幼児の体がアレルゲンに対する免疫を作り上げることができない。

∴ アレルゲンにさらされることは, 抵抗力をつけるために必要。

背景知識

● 「衛生仮説 (hygiene hypothesis)」提唱者のアプローチ

一般的に言って, アレルギーとは, 免疫反応が激しすぎたために身体に異変が起こった状態を言う。その引き金となるのがアレルゲンと呼ばれる物質で, 例えばスギ花粉やダニなどがある。

特に, 日本におけるダニとアレルギーの増加の因果関係については次のように言われている。木造で風通しのよい日本古来の家屋に代わり, 鉄筋コンクリート製などの気密性の高い住居が増えた。これによりダニが生育しやすい温度や湿度が保たれる環境が増え, 増殖を促すこととなった。以上が大きな原因であるとされる。つまりアレルゲンとなる物質であるダニが増加したことがアレルギーの増加につながったということであり, これはスギ花粉の増加と花粉症の増加の関係でも同じことが言える。

これに対し, 逆の説もある。1989年, イギリスのストレイハン博士は, 同居家族の数が多いほど花粉症の発症率が少ないという観察結果から, アレルゲンにさらされていないことが原因となるとする説を発表した。これが「衛生仮説」であり, アレルギー発生の原因解明のための新たな手法として注目されている。

【深めたい人】: 矢田純一『アレルギー』(岩波書店, 1994年), 千葉県アレルギー相談センタートピックス「衛生仮説」(<http://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/faq/190.html>)